

西濃事務研究会報

平成 23 年 1 2 月 2 0 日

平成 23 年 1 1 月 2 8 日、大垣市市民会館にて研修会を行いました。

会長挨拶 揖斐川町立谷汲小学校 石原 明美

「標準的職務内容」が通知されたこと、毎年 1 0 月 6 日に「事務の日」が位置づけられたことにより、私たちひとりひとりの職務に対する意識や、学校運営への参画についての意識も高まってきている。「事務の日」をきっかけに、西濃地区でも経理の面で新しい取り組みをしたり、ホームページを利用して地域への情報発信をしたりする取組を行っている事務職員もいる。

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務職員」をめざすのならば、掃除の時間は、いっしょに掃除をする。子どもたちに、進んで声をかける等、できるとよいと思う。運営委員会や企画委員会に参加し、事務職員からの立場で意見を言うことも大切だが、教師、保護者、あるいは地域との関わりを持ちながら、実際に事務職員もいっしょに活動し、さらにはスリム化・効率化を考えた実践をしていく必要がある。教員の子どもへの係わる時間を増やすために、積極的に取り組んでいただきたい。

曾野綾子さんの「ただ一人の個性を創るために」より、

- ・自分を教育する最大の責任者は(低学年は別として)自分自身である。
- ・人間は明かりだらけだったら、明るいということの意味もわからない。
- ・学校は学力や知識を身につけると同時に、徳育をするところだ。そこが塾とは明らかに違う。
- ・人間になるためには、利害を離れて、人のために働くことのできる存在にならなければならない。

事務職員は、子どもたちの明るい部分だけではなく、担任の気がつかない明暗の「暗」の部分を見ることがあるかもしれない。職員全員が一体となって子どもたちを支援し育てていく必要があると思う。

来賓ご挨拶

西濃教育事務所 所長 谷本 龍馬 様



今年度は、3月 11 日の震災を機に、いろいろなことを問い直した 1 年であった。電力不足に対しいろいろな知恵を出しあい夏をのりきったが、いままでの生活を見直すよい機会となった。冬も暖房が必要となるので、同様に節電に心がけなければいけない。人間の作ったものは、自然の前では微力であると感じた。私たちは、目標を設定しそのために日々努力しているが、時代の変化にずれてきてはいないかを見つめなおし、時には方向転換していかなければなら

ない。事務職員には行政の立場で、プロセスをみて意見を言うことが重要である。

先日行われたシンポジウムでは、被災地に派遣された教員から学ぶところが多々あった。欲しいものを欲する生活では、目の前にある尊いものを見失ってしまうのではないか。是非、子どもの前に出て、事務職員の角度から、1 円、1 0 円を大切に学校が作られていることを話してほしい。それによっ

て、子どもも、事務職員自身も変わっていけないのではないか。

大垣市教育委員会 学校教育課 課長 清水俊光 様

大垣市では、学校教育基本計画を作成した。市内全てのこどもが「たしかな学力 豊かな心 健やかな体」をつけられることを目標としている。安心・安全な学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指してほしい。学校全体を見渡している事務職員が多いと感じている。今年度は小学校、来年度は中学校で新学習指導要領が全面实施され、教育が大きく変わる。西濃事務研の「対応力」が重要になってくるであろう。これからの社会に対応する力をつけてほしい。



西濃小中学校校長会長 近藤 茂 様



- ① 事務職員も高齢化してきている。いざという時のために、普段から文書の整理・整頓をしっかりとっておくこと、日頃から中学校区で情報交流など行い、連携をとっていくことが必要ではないか。
- ② 正規採用事務職員の増加の要望について、採用年齢の幅をひろげるよう、校長会と力を合わせて要望していくとよい。
- ③ 非正規職員、初任者が増え、事務職員も多忙化している。周りにも、力をあわせないとミスがでてくる可能性もあるということを理解してもらわなければならない。
- ④ 学校で何も起きていないのは、力を合わせて努力している成果である。事務職員は、正確に確実に事務処理をやらなければならない。目標をもってがんばってほしい。

研究発表 海津市事務職員会

「情報マネジメントによる事務処理・校務改善

～情報の共有化・共通化から さらに一歩前へ～

海津市では、年6回の研究会と1度の研修視察を開催している。「地域が誇る園、学校づくり」という海津市の教育方針を受け、「情報管理」、「学校予算」の面から学校経営に主体的に参画できるよう研究を進めている。

1) 実践

部会全体での取り組み

「Q&A実務交流」

年に1度は全員が発言する。

給与等に関わる手続きだけでなく、工夫している点や学校での問題の解決方法などの交流を行う。

「諸帳簿点検・実務交流会」

1ヶ月に1度、会場校の諸帳簿を点検する。

出勤簿を元に確認。出張に関しては、旅行命令書の入力の方法、添付書類を確認し、事務所の指導事項も交流する。

海津市の学校間共有ネットワークサーバを活用し、それぞれのグループが実践を行った。

「広報部」 → 「海津市学校.COM」、「事務だより ジム☆レポ」、「学校生活の手引き」

「財務部」 → 「財務だより てんとう虫」、「備品の共同活用促進」

「総務部」 → 「教育委員会との連携」、「様式の統一」、「グループウェア導入」

2) 成果

「Q&A実務交流」や「諸帳簿点検・実務交流会」は事務職員自身の資質向上につながり、事務処理能力の強化につながった。また、先輩からの知恵の継承など、「人材育成」にもつながっている。

広報部は、「海津市学校.COM」や「学校生活の手引き」などが事務負担軽減につながるよう、情報を最新のものになるよう更新している。また、海津市に勤務する教職員の「情報の窓口」となる内容になった。

財務部の作成した、保護者、児童生徒、教員向けの財務だよりは、学校予算を考える手立てとなる内容として発信できた。また、「学校予算の有効活用」として、「備品の共同活用」を推進するために「共同活用備品リスト」を作成し、備品管理規程の検討をした。

総務部は、「情報の共有」を推進させ、事務の平準化・効率化を目的として6様式を統一させ、ネットワークフォルダで活用させることができた。また、教育委員会との連携も積極的に行い、予算説明会の開催や事務処理の改善など、成果に結びついた。また、グループウェアの導入が具体化され、次年度予算への計上に結びついた。

「子どもたちの豊かな育ちを支援する学校事務」として、校外学習や、教材の整備などがスムーズに行えるような体制づくりを進めることができた。また、毎日の業務がスムーズに行えるように検討できたことは、教員の抱える事務処理負担の軽減につながった。

3) 課題

それぞれの実践は「事務の適正化・効率化、平準化」、また、「人材育成」や「資質向上」などの面では成果があったと感じている。しかし、「教育活動の支援」という面からは、まだまだ課題が残されている。

「学校間連携」と聞くと、「集まって何かしなくてはならない」というイメージがあるが、3グループの実践や部会として行っている「実務研修」や「諸帳簿点検」は「学校間連携」そのものである。

今後は、事務職員自身だけが満足する実践ではなく、いかに「教員が児童生徒と向き合う時間を確保するか」など、「教育活動の支援」に結びつけるかが課題である。

また、現在行っている「諸帳簿点検・実務交流会」は、「事務職員自身の事務処理能力の強化や人材育成などにはつながるが、『教育活動の支援』につながる実践であるのか？」という疑問を感じている。この「諸帳簿点検・実務交流会」をどのような時間にすると、「教育活動の支援」となるのかも併せて、検討していきたい。

指導・講評 西濃教育事務所 課長補佐 服部 公彦 様

紙の資料を提示して目線を変えるなど、見やすいプレゼンだった。

広報部の発表の、“内容を充実させても使わないと意味がない”と考えていることは、そこに事務職員の願いがあるということだ。全職員が情報を知っているということは、子どもの質が高まることを支えていることだ。単なるHOW TOで終わらせず、問合せ先を載せるなど情報交流の柱としてはどうか。

財務部の発表は、地域に知らせて学校を理解してもらう、新しい視点であった。備品共同システムは、備品を効果的に活用でき、教育の質を高めるのに役立つ。

総務部の発表は、会場を変更し教育委員会にも参加してもらうという発想がよい。情報ネットワークも、最後は人と人のFACE TO FACEでの相互理解である。組織が有効に動いて、学校と教育委員会、地域をつなぐ研究を続けてほしい。



連絡

県事研 理事

- ・ 10月6日に事務の日セミナーがあった。まとめが県のHPに掲載されている。
- ・ H24は11月22日に関市文化会館で、県・東海大会を行う。
- ・ H25の県大会は、西濃地区が会場となる。
- ・ 県事研評価を行う。11月30日に郡市理事から配信される。
- ・ 共同実施プロジェクトで事務便りを掲載したいと考えている。協力をお願いしたい。
- ・ 財務ウィークの実践事例は、12月2日までに東安中の桐山先生まで。

県 総務部

- ・ 事務日誌は1冊380円。新任教頭研で紹介された、2月末頃発送予定。HPに意見を書き込んでほしい。
- ・ 会誌の表紙となる、写真・絵・作品等を募集している。

県 研究部

新しい課題別マニュアルが、10月18日からHPに掲載されている。一目で仕事の流れがわかるようにした。

県 研修部

夏に行った基礎研修は盛況だった。次年度も同様に行い、新規で1コース追加する予定。

実践発表 「事務部経営案について」

宮代小学校 辻 和子さん
神戸中学校 米山健太郎さん

講演 「チャレンジ ～自己を高める」

大垣市立宇留生小学校 教頭 河合 康満 様

教頭になって1年と8ヶ月、昨年度はすべてが教頭としてはじめての経験であった。2年目に入り少しわかってきた。教頭になれたのは32年間の事務職員としての経験のおかげ。

机上で考えたことを必ず行動に移す。PTA活動等、チャンスがあればぜひやってほしい。色々な人と会うことで自分が変わっていき、必ず自分のためになる。人とのつながりのなかで、色々なものが吸収できるから、前面に出てほしい。10歩前くらいに。地域人材のひとりとして授業等で子どもに話をするなど、チャレンジしてほしい。全国では、教頭・校長になった事務職員が沢山いたが岐阜県ではまだい

なかったから、自らが進んでやろうと思った。



一番関心があるのは、日々教頭としてどう過ごしているかということであろうが、なにもかもがわからなく、毎日が大変だった。面白いほどわからない。事務職員という立場の時は、離れてみているからわかる。地域にいれば、僕の話すことは、学校の考えていることになるので、ひとこと一言に責任がありプレッシャーを感じる。

自分が感じたことを言葉として発することによって、それに対して言葉が返ってきて、新しいことが発見できる。考えを自分のなかで整理することができないと、自分の言葉で話すということはいできない。

これからの事務職員像については、是非、会議で発言をしてほしい。どういうビジョンがあってどちらの方向に進んでいるか、そこはぶれないでほしい。リーダーの今後の育成は大変だと思う。今後 10 年で事務職員も大量に退職するが、そのとき、今の 40 代がどうリーダーシップをとって研究会等組織を運営していくのかという課題があると思う。今のうちに経験豊富な課長補佐・主査が、今までのノウハウで若い力を引き出せるよう指導してほしい。

研修 「財務マネジメント研修」

西濃地区事務職員研究会 研究推進委員会

- ①具体的方策について提案・実践発表
- ②取組についてグループ交流及び実践紹介

実務指導

西濃地区事務職員研究会 研修指導委員会

- ①児童生徒の就学について 手続き・学校の配慮点
- ②災害支援派遣教員にかかる事務手続きについて 服務・給与・共済・旅費等
- ③災害に関連した休暇について 改正点、ボランティア活動の内容
- ④ボランティア休暇を取得した事例紹介
- ⑤職員が罹災した場合の手続きについて 共済・休暇等